



夏の終わりに思うこと

9月

学校長 中山 光恵

例年よりちょっと長い夏休みを終え、子どもたちが元気に学校に戻ってきました。しばらく見ない間に身体が一回り大きくなり、たくましさを感じます。夏のエネルギーをたっぷり吸収し、やる気に満ちた子どもたちを見ると、清々しい気持ちになると同時に新たな始まりへの緊張感が湧いてきます。

一方、生活リズムが崩れていたり心身の調子が崩れたりしやすいのもこの時期です。私たち教職員は、子どもたちに毎日元気に楽しく学校に通ってほしいと願い、日頃の授業や学級活動などで実践的な取組を行いながら、それぞれの目標や思い・願いが達成されるよう工夫を凝らしています。どの子も学習や対人関係、健康などの、様々な悩みにより、学校生活に支障をきたすことのないよう、きめ細やかな指導を心がけたいと思います。ご家庭と連携して教育活動を行ってまいりますので、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、金沢小では学校飼育動物としてモルモットを飼育していましたが、残念なことに夏休みに亡くなりました。「バニラ」と名付けて、寒い季節は1年生と2年生の間にあるにこにこルームで、その他の季節は2年生と4年生の昇降口にゲージを置いて、全校児童が関われるようにしていました。

主に世話をするのは2年生ですが、年度末が近付くと1年生も一緒に世話をします。年度末に世話の仕方が分かった1年生は、2年生になると自信をもって関わるようになりました。

1年生と2年生が学ぶ教科として「生活科」があります。生活科は、様々な活動や体験を通して、自分自身や身近な人々、社会や自然などの特徴やよさに気付き、自分自身や自分の生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する教科です。生活科の中で、子どもたちに習得させたい内容の一つに「動植物の飼育・栽培」があります。動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらがどのように成長するのかに興味や関心を持ち、心を寄せ、よりよい成長を願って関わっていくことがねらいです。

子どもたちは自分が飼育・栽培している対象に関わるうちに、動物や植物が成長をしていること、生命を持っていることや生命の大切さに気がきます。「バニラちゃんのお家を掃除しました。おしっこやうんちがたくさんありました。でも、バニラちゃんを大事にしたいから、きれいにしました。バニラちゃんがうれしそうなので、私もやさしい気持ちになりました。」

愛着をもって世話をしたり、その存在をいつも気にしたりしていた子ほど、今回の突然の死は受け入れがたく、悲しい経験であったかと思います。子どもたちの成長に必要な経験と捉え、つらい気持ちに寄り添っていきたいと思います。